

「フィステーラ＝ムシーアの道」 (サンティアゴ巡礼路)と「死の海岸」の 遺産化に関わる人びと 地域文化コーディネーターの活動と役割

The Actors Involved in the Process of Cultural Heritization in Camino de
Fisterra-Muxía (Camino de Santiago) and Costa da Morte, Spain :
Roles of Coordinators of Local Cultures and Their Activities

竹中宏子

TAKENAKA Hiroko

- ①はじめに
- ②サンティアゴ巡礼路とガリシアに関する概要
- ③アソシエーション
- ④地域文化コーディネーター
- ⑤おわりに

【論文要旨】

本稿は、サンティアゴ巡礼路の一つに数えられる「フィステーラ＝ムシーアの道」と当巡礼路の終着点周辺で低開発地域とされる「死の海岸」の遺産化の過程における「地域文化コーディネーター」の活動と役割を明らかにするものである。そこから、第一に地域文化コーディネーターの活動において彼らが獲得したスキル、すなわち地域に存する資源を文化遺産に変えられる方法と知識を用いて、自らの故郷に対する強い「想い」を実現させる様態が見られ、第二に資源の遺産化というシステムにおいて地域文化コーディネーターのような特殊な個人の存在が不可欠であることが明らかになった。注目すべきは地域文化コーディネーターの最大の特徴が、故郷に対する「想い」の強さではなく、「想い」を実現させる為に論理的で合理的な戦略を立てられる点である。

このように集団の視点からではなく個人に焦点を当てることにより、文化遺産が内包する意味の重層性を考察している。

【キーワード】 地域文化コーディネーター、ガリシア、文化遺産、遺産化、主体